

風土記の丘の花だより²⁵⁷

今、そしてこれから見られる植物 (2024年10月19日)

ヒガンバナの花も終わり、秋が深まってきました。でも、まだ暑く感じる日がありますね。早く爽やかな秋本番になってほしいものです。



とても、とても小さい花ですが、アカネの花が咲きました。今年もとても少ないです。というか、私が道沿いで確認できたのは、この一株だけです。万葉植物園の入り口手前です。アカネは漢字で 茜 と書きますが、もともとは赤根のことで、この草の根を赤色の染料に用いたことに由来します。それで、夕焼けのような赤を「茜色・あかねいろ」というのです。草むらをガサガサ行けば群生している所もありますが、ちょっと大変なので、まだ咲いていたら、この貴重な一輪を探してみてください。



少し変わった形の花が咲いていますが、何科の花か分かりますか？こんな形をしています、キク科です。名前はヤブタバコです。でもタバコとは関係ありません。ヤブタバコは枝が四方八方に伸びる、行儀の悪い草です。キク科の花は、花びらのある花と、ない花がたくさん集まって一つの花になっています。私たちが眺める「菊」の花びらは、舌状花（ぜつじょうか）といって、花びらのある方の花です。ですから、舌状花のないこの花は一般的なキクのイメージとはかけ離れているように思います。



細い柄に小さな丸い実が連なって付いています。ヒメミカンソウです。この実をよく見るとまるでみかんのようなので「蜜柑草」という名前が付いています。でももちろんミカンの仲間ではなく、トウダイグサ科の草です。今、この仲間でナガエコミカンソウ（古い図鑑ではブラジルコミカンソウかも）という外来植物がものすごい勢いで増えています。きっと皆さんの周りでもいっぱい生えていると思います。気になる方はスマホか何かで検索してみてください。「はは〜ん、これか」と思うことでしょう。



タマスダレの白い花がきれいに咲いています。明治維新のころに日本に入ってきたと考えられています。元は園芸植物だったので、いまではあちこちで見ることができ、すごい繁殖力でどんどん増えています。ヒガンバナ科の有毒植物ですが、見たり触ったりする分には、何の心配もありません。和名がとてもステキですが、どこが玉簾なのでしょう？少なくとも「さては南京たますだれ」とは関係なさそうですね。

松下